

35

な は しゅり
むかしの那覇と首里のようす (1)



しゅり な は こうす びょうぶ りゅうきゅうおうこくじだい おうふ
首里那覇港凶屏風は、琉球王国時代の王府が
あった首里、港町だった那覇のにぎわいをえがいた
絵図です。屏風絵から当時のようすを調べてみ
よう。



ア. ハチマチをかぶった役人



イ. 松の木と建物が見えます



ウ. 石づくりの門が見えます



エ. 石づくりの橋

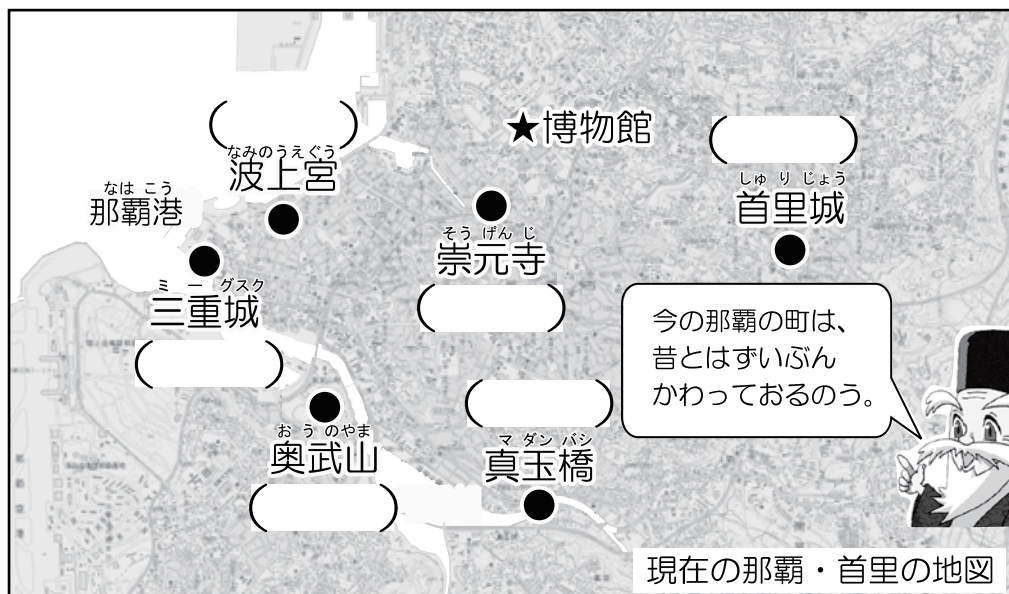


オ. 崖の上の神社



カ. 那覇港の入口です

1. 上の図のア～カは、屏風絵の中にえがかれている場面です。ア～カの場面は、下の地図の中のどこにあたりますか。地図の中のかっこに記号を書きこもう。



2. 上の地図の中にある奥武山という場所は、むかしはどんなところだったのでしょうか。下の①～④の中から選ぼう。

- ① 灯台
- ② にぎやかな市場
- ③ 海に浮かぶ島
- ④ 神社

答え ()